

2024年度第3四半期 決算報告書

プレスリリース



2024年10月31日



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world

2024年度第3四半期 決算報告書

プレスリリース

2024年10月31日、パリ

BNPパリバは2024年度第3四半期に2,868百万ユーロ (+5.9%) と高水準の純利益を達成した

営業収益 (11,941百万ユーロ) は、多角的かつ統合的なビジネスモデルにより、2023年度第3四半期¹比2.7%増

- CIB部門 (2023年度第3四半期¹比+9.0%) およびIPS部門 (2023年度第3四半期¹比+4.9%) の業績が非常に好調
- CPBS部門 (2023年度第3四半期¹比-2.6%) は、アルバルの中古車販売による収益を除くと横ばい (-0.1%)

ジョーズ効果はプラス² (+1.0ポイント³)

- 業務効率化策を引き続き実施 (2024年9月30日現在、655百万ユーロのコスト節減で、2024年度に見込まれている1十億ユーロに沿っている)

営業総利益 (4,728百万ユーロ) は、2023年度第3四半期¹比4.2%増

リスク費用⁴は32ベースポイントで安定

当グループの純利益 (2,868百万ユーロ) は、2023年度第3四半期¹比5.9%増

1株当たり純利益⁵ (2.38ユーロ) は、2023年度第3四半期¹比11.2%増

財務構造は非常に良好 (普通株式等Tier1比率は12.7%)

- 2024年度第3四半期にアルバルをプルデンシャル・スコープの範囲で連結 (30ベースポイント)。2024年度下半期に予定されている証券化は2024年度第4四半期に実施

Bank of the Westの売却に伴う資本の再配分

- Cardif / AXA IMプロジェクト⁶は、IPS部門を当グループ内で戦略的に再配置する主要な取組み

2024年9月30日現在の1株当たり純資産額⁷ : 91.1ユーロ

2024年度第3四半期業績を踏まえ、BNPパリバは、2024年度決算の方向性として、営業収益は2023年度¹の営業収益 (46.9十億ユーロ) から2%超増加、ジョーズ効果はプラス²、リスク費用は40ベースポイント未満、また当グループの純利益は2023年度の調整後純利益¹ (11.2十億ユーロ) を上回る見込みであることを確認しました。



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world

BNPパリバの取締役会が2024年10月30日に開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務める中、当グループの2024年度第3四半期の業績が検討されました。

ジャン＝ローラン・ボナフェCEO（最高経営責任者）は取締役会の最後に、以下のように述べました。

「このような非常に良好な業績は、各事業部門の業績によってもたらされたものであり、当グループがリスクおよび資源を徹底して管理しながら成長を続ける能力を有していることを示しています。特に第3四半期は、CIB部門の市場シェア獲得能力およびIPS部門（特に保険事業およびアセット・マネジメント事業）の力強い事業の勢いを示しています。コマーシャル&個人向けバンキング事業は、金利環境の好転により徐々に恩恵を受ける見通しです。以上から、当グループは、2024年度決算の方向性を確認し、特に、IPS部門を当グループ内で戦略的に再配置する主要な取組みであるAXA IMの買収計画により、長期的に発展し続けることに引き続き注力していきます。お客様とともに、すべてのチームの継続的な結集に謝意を表します。」

2024年9月30日現在の連結グループ業績

2024年度第3四半期の当グループの業績

営業収益

2024年度第3四半期において、グループ全体の営業収益は、11,941百万ユーロとなり、2023年度第3四半期（調整後）¹と比較して2.7%増でした。

ホールセールバンキング（CIB）部門の営業収益は、3つの事業部門すべての非常に好調な業績が複合的に影響したことにより、大幅に増加しました（前年同期比+9.0%）。特に、グローバル・バンキング事業（前年同期比+5.9%）は、EMEA地域のキャピタルマーケット事業（前年同期比+12.4%⁸）、EMEA地域のアドバイザー業務ならびに米州およびアジア太平洋諸国のトランザクションバンキング業務により好調でした。グローバル・マーケット事業（前年同期比+12.4%）は、株式・プライムサービス事業（前年同期比+13.2%）およびFICC事業（前年同期比+11.8%）における力強い増加の恩恵を受けました。証券管理事業（前年同期比+6.6%）は、正味受取利息および残高の増加により好調でした。

コマーシャル&個人向けバンキングサービス（CPBS）部門⁹の営業収益は、減少しました（前年同期比-2.6%）が、アルバルの中古車販売による収益を除くと横ばい（前年同期比-0.1%）でした。

ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業の営業収益は、わずかに減少しました（前年同期比-1.1%、前年同累計期間（1-9月）比-1.3%）。それでもなお、当四半期において改善が見られ、特に平均融資残高（434十億ユーロ）が安定化し、個人向け貸出がわずかに回復しました（前四半期比+0.1%）。逆風（インフレ・ヘッジ、法定準備金およびベルギー国債）の影響を除くと、ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業の営業収益は、前年同累計期間（1-9月）と比較して2.1%増となりました。全体として、これらの事業は、（i）市場が予想するイールドカーブのスティープ化による金利環境の好転、および（ii）事業成長に対する逆風による影響の縮小（2024年度第1四半期は前年同期比-149百万ユーロ、2024年度第2四半期は前年同期比-139百万ユーロ、2024年度第3四半期は前年同期比-63百万ユーロの影響）により恩恵を受ける見通しです。

専門的金融事業の営業収益は減少しました（前年同期比-5.7%）。これは、主としてアルバルとリーシング・ソリューションズ（前年同期比-10.6%）の2つの異なる状況によるものでした。リーシング・ソリューションズの営業収益は3.2%増加しましたが、アルバルの営業収益は、その有机的収益の増加（+15.3%）が示すように、業績が良好であったにもかかわらず、中古車価格の正常化の影響を受けました。



パーソナル・ファイナンスの営業収益は、全体では減少（-3.3%）したものの、継続中の戦略計画に従い、主要対象範囲では増加しました（+1.5%）。ニューデジタル事業と個人投資家事業の営業収益は横ばいでした。

インベストメント&プロテクションサービス（IPS）部門の営業収益は、4.9%増加しました。アセット・マネジメント事業（前年同期比+7.9%）および保険事業（前年同期比+6.4%）は、当四半期において非常に好調で、引き続き同部門の増収を支えました。ウェルス・マネジメント事業（前年同期比-0.5%）は、手数料の増加により横ばいでした。

営業費用

営業費用（7,213百万ユーロ）は、当四半期において抑制されました（前年同期比+1.7%）。ジョーズ効果はプラス（+1.0ポイント）で、業務効率化策の実施による恩恵を受けました。これは、2024年度決算の方向性で発表されている1十億ユーロに沿ったもので、当第3四半期累計期間（1-9月）において655百万ユーロに相当しました。これらの施策には、主に（i）パーソナル・ファイナンスの適応計画、（ii）対外支出の削減、（iii）シェアードサービス・センター（SSC）の展開、（iv）事業用地の最適化（2023年度以降、約100,000m²を放出）および（v）自動化／ロボット化への取り組み（ロボットの台数は2023年度末以降+15%）が含まれます。

CIB部門の営業費用は増加し、成長を支えました（前年同期比+8.6%）。CIB部門全体のジョーズ効果はプラス（+0.4ポイント）で、グローバル・バンキング事業（+0.1ポイント）、グローバル・マーケット事業（+0.5ポイント）および証券管理事業（+1.8ポイント）においてもプラスでした。

CPBS部門⁹の営業費用は減少しました（前年同期比-0.9%）。ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業の営業費用は1.9%減少し、ジョーズ効果はプラス（+0.8ポイント）でした。専門的金融事業の営業費用も1.3%減少しました。ジョーズ効果は、（i）適応計画に伴い、パーソナル・ファイナンス（+2.3ポイント、主要対象範囲では+2.7ポイント）および（ii）リーシング・ソリューションズ（+2.4ポイント）において、プラスとなりました。

IPS部門の営業費用は、業務効率化策の加速に伴い、すべての事業部門で抑制されました（前年同期比-0.4%）。ジョーズ効果は、IPS部門において極めて高い水準（+5.2ポイント）で、すべての事業部門（リアル・エステートを除く）でプラスとなりました。

以上から、グループ全体の営業総利益は、当四半期において4,728百万ユーロとなり、前年同期（4,536百万ユーロ）と比較して4.2%増加しました。

リスク費用

当四半期のグループ全体のリスク費用は、729百万ユーロ⁴（前年同期は734百万ユーロ）となり、顧客向け融資残高の32ベースポイント相当で、信用ポートフォリオの質の高さおよび分散化により、サイクル全体を通じて40ベースポイント未満にとどまりました。当四半期のリスク費用は、正常債権（ステージ1および2）に対する引当金の戻入217百万ユーロおよび不良債権（ステージ3）に対する引当金946百万ユーロを反映していました。

営業利益、税引前利益および当グループの純利益

グループ全体の営業利益は3,957百万ユーロ（前年同期は3,802百万ユーロ）となり、グループ全体の税引前利益は4,060百万ユーロ（前年同期は3,862百万ユーロ）となりました。当四半期の法人税率は、平均で27.4%でした。

当グループの純利益は、当四半期において2,868百万ユーロとなり、前年同期（2,709百万ユーロ）と比較して5.9%増加しました。

以上から、1株当たり純利益⁵は2.38ユーロとなり、前年同期と比較して11.2%増加しました。



社会的責任

当第3四半期累計期間（1-9月）は、業績にとどまらず、BNPパリバの社会的責任への取組みを実証しています。これは、格付機関およびNGO（FTSEラッセル、ムーディーズESGソリューションズおよびWDIシェアアクション）による最近の格付、ならびにBNPパリバの取組みを評価する認証（LSEG、トップ・エンプロイヤーおよびアフノール）によっても明らかです。当グループは、平等に向けた条件を整備しながら、引き続き「人材戦略2025」を実施します。これは、上級管理職におけるジェンダー・ダイバーシティを継続的に進展させ、当グループの業務執行委員会におけるジェンダー・ダイバーシティを改善し、現在ではSBF120社およびFinanci'Elles連盟加盟企業の業務執行委員会の平均を上回る水準となっていることによっても証明されています。

2024年度第3四半期累計期間（1-9月）の当グループの業績

2024年度第3四半期累計期間（1-9月）において、**営業収益**は36,694百万ユーロとなり、前年同累計期間（1-9月）（調整後）¹と比較して**2.0%**増加しました。

CIB部門の営業収益（13,405百万ユーロ）は、前年同期比**5.0%**増となり、グローバル・バンキング事業（前年同期比**+5.8%**）、グローバル・マーケット事業（前年同期比**+3.6%**）および証券管理事業（前年同期比**+8.0%**）の増収を反映していました。

CPBS部門⁹の営業収益は横ばいで、**20,026**百万ユーロでした。特にコマーシャル&個人向けバンキング事業（BNL：前年同期比**+5.4%**、CPBL：前年同期比**+5.0%**）が好調でした。

IPS部門の営業収益は**4,381**百万ユーロ（前年同期比**+2.9%**）となり、保険事業（前年同期比**+5.3%**）、ウェルス・マネジメント事業（前年同期比**+3.5%**）およびアセット・マネジメント事業¹⁰（前年同期比**+7.1%**）の増収を反映していました。

グループ全体の**営業費用**は**22,326**百万ユーロとなり、前年同期（**22,035**百万ユーロ）と比較して**1.3%**増加しました。これには、事業再編費用と事業適応費用（**143**百万ユーロ）およびIT強化費用（**254**百万ユーロ）の合計**397**百万ユーロの一時的影響が含まれています。事業部門レベルでは、営業費用は、**CIB部門**では**3.7%**増となり、**CPBS部門**⁹では**2.6%**増（ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業は**+1.1%**、専門的金融事業は**-0.3%**）となりました。**IPS部門**では横ばいでした。

したがって、グループ全体のジョーズ効果はプラス（**+0.6**ポイント）でした。

以上から、グループ全体の**営業総利益**は、2024年度第3四半期累計期間（1-9月）において**14,368**百万ユーロとなり、前年同期（**13,939**百万ユーロ）と比較して**3.1%**増加しました。

グループ全体の**リスク費用**⁴は**2,121**百万ユーロ（前年同期は**1,935**百万ユーロ）でした。

グループ全体の一時的な営業外項目は、2024年度第3四半期累計期間（1-9月）において**344**百万ユーロで、これにはウクライナにおける事業の再連結¹¹（**+226**百万ユーロ）およびメキシコにおけるパーソナル・ファイナンス事業の売却に伴う譲渡益（**+118**百万ユーロ）が含まれています。

グループ全体の**税引前利益**は**12,845**百万ユーロとなり、前年同期（**12,515**百万ユーロ）と比較して**2.6%**増加しました。

平均法人税率**25.8%**に基づくと、当グループの**純利益**は、**9,366**百万ユーロ（前年同期は**9,225**百万ユーロ）となりました。

2024年9月30日現在、**有形自己資本利益率（再評価前）**は**11.8%**でした。これは、多角的かつ統合的なビジネスモデルを背景とする当グループの堅調な業績を反映しています。

2024年9月30日現在、非常に良好な財務構造

普通株式等Tier1比率は、2024年9月30日現在12.7%で、2024年6月30日現在と比較して30ベースポイント減少しましたが、監督上の検証・評価プロセス（SREP）の要件（10.27%）および当グループの目標である12%を大幅に上回りました。

発表した通り、2024年7月1日、アルバルをプルデンシヤル・スコープの範囲で連結し、その影響は30ベースポイントでした。その結果、2024年7月1日現在の普通株式等Tier1比率は12.7%でした。2024年9月30日現在、普通株式等Tier1比率は横ばいであり、これは（i）2024年度第3四半期のリスク加重資産の変動控除後の有機的資本の創出（+20ベースポイント）、および（ii）2024年度第3四半期の利益分配（配当性向60%に基づく）と-20ベースポイントの複合的影響によるものでした。2024年度第4四半期には、予定されている証券化プログラムにより、リスク加重資産を10ベースポイント超削減できる見通しです。

レバレッジ比率¹²は、2024年9月30日現在、4.4%でした。

流動性カバレッジ比率¹³（期末）は、2024年9月30日現在、124%の高水準で（2024年6月30日現在、132%）、即時利用可能な余剰資金¹⁴は、2024年9月30日現在で467十億ユーロに上り、これは資金調達との関係で1年超の余裕資金があることを意味しています。

2024年度決算の方向性の確認

2024年度第3四半期業績を踏まえ、BNPパリバは、2024年度決算の方向性として、（i）営業収益は2023年度の調整後営業収益（46.9十億ユーロ）から2%超増加、（ii）ジョーズ効果はプラス²、（iii）リスク費用は40ベースポイント未満、また（iv）当グループの純利益は2023年度の調整後純利益（11.2十億ユーロ）を上回る見込みであることを確認しました。

この決算の方向性は、当第3四半期累計期間（1-9月）に認められたいくつかの良好な傾向に基づいています。

- 資本の最適配分を維持しながら、CIB部門の市場シェアの継続的獲得
- （1）市場が予想するイールドカーブのステイプ化による金利環境の好転、（2）信用および預金の安定化、ならびに（3）事業成長に対する逆風による影響の縮小によるユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業の見通しの改善
- IPS部門のアセット・マネジメント事業および保険事業における力強い勢い
- 業務効率化策のさらなる実施：当第3四半期累計期間（1-9月）に655百万ユーロのコスト節減を達成。2024年度第4四半期には345百万ユーロのコスト節減見込み
- サイクル全体を通じてリスク費用を抑制

また、決算の方向性では、アルバルについて、その有機的収益の継続的な増加が示すように、業績が良好であったにもかかわらず、中古車価格によるマイナス影響も考慮しています。

資本の再配分を考慮した2026年度の見通しは、2024年度決算発表時に更新する予定です。



ホールセールバンキング (CIB) 部門

2024年度第3四半期のCIB部門の業績

当四半期のCIB部門の業績は、3つの事業すべてにおける非常に好調な活動およびグローバル・マーケット事業の営業収益の大幅な増加により好調でした。

営業収益 (4,247百万ユーロ) は、前年同期比9.0%増でしたが、これはグローバル・バンキング事業 (前年同期比+5.9%)、グローバル・マーケット事業 (前年同期比+12.4%) および証券管理事業 (前年同期比+6.6%) の3つの事業すべてにおける好業績の複合的な影響によるものでした。

営業費用は、2,571百万ユーロとなり、前年同期比8.6%増 (連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+8.7%) で、これは当四半期の事業活動が非常に好調であったことによるものでした。ジョーズ効果は、プラス (+0.4ポイント、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+0.7ポイント) でした。

営業総利益は、1,677百万ユーロとなり、前年同期比9.7%増でした。

リスク費用は、-27百万ユーロとなり、低い水準を維持しましたが、これは特に正常債権 (ステージ1および2) に対する引当金の戻入によるものでした。

こうした良好な業績により、CIB部門の税引前利益は、1,652百万ユーロとなり、6.3%増となりました (連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+7.2%)。

CIB部門ーグローバル・バンキング事業

グローバル・バンキング事業では、当四半期においてさらに増収し、事業活動は非常に好調でした。

営業収益 (1,487百万ユーロ) は、前年同期比5.9%増となり、特にEMEA地域およびアジア太平洋諸国において増加しました。事業部門別では、キャピタルマーケット事業における営業収益が、特にEMEA地域で増加し (前年同期比+12.4%⁸)、また、トランザクションバンキング業務における営業収益が、特に米州 (トレードファイナンス) およびアジア太平洋諸国 (キャッシュマネジメント) で増加しました (前年同期比+5.7%⁸)。アドバイザリー業務における営業収益もまた、特にEMEA地域において増加しました。

事業の勢いに関しては、オリジネーション業務は、EMEA地域の特に債券市場 (発行高は前年同期比29%¹⁵増) およびシンジケートローンにおいて非常に好調でした。トランザクションバンキング業務において、キャッシュマネジメントが特にアジア太平洋諸国で好調で、トレードファイナンスが特に米州で好調でした。アドバイザリー業務もまた、特にEMEA地域およびアジア太平洋諸国で好調でした。

融資残高は186十億ユーロで、前年同期比4.5%増⁸、前四半期比2.1%増⁸となりました。預金残高は220十億ユーロとなり、引き続き増加しました (前年同期比+6.5%⁸)。

グローバル・バンキング事業は、シンジケートローンおよび債券発行においてEMEA地域のリーダー¹⁶、2024年度上半期にEMEA地域におけるトランザクションバンキングの営業収益では同順位で第1位¹⁷、ならびにサステナブルファイナンスにおいて欧州および世界のリーダー¹⁸として、ランキングにおいて主導的地位にあることを確認しました。



CIB部門－グローバル・マーケット事業

当四半期は、すべての事業部門における力強い事業活動の増加が見られました。

グローバル・マーケット事業の営業収益は、2,023百万ユーロとなり、前年同期比12.4%増と力強い成長を達成しました。

株式・プライムサービス事業の営業収益は820百万ユーロとなり（前年同期比+13.2%）、特に米州およびアジア太平洋諸国のプライムサービス業務（営業収益は前年同期比40%超の増加）において力強い増加が見られました。営業収益は、株式デリバティブ業務では全体的に横ばいで、現物株業務では当四半期にわずかに増加しました。

FICC事業の営業収益は1,203百万ユーロとなり、前年同期比11.8%増でした。クレジット業務は特に米州および新発債市場のほか、金利および為替市場においても非常に好調で、特に米州の金利および為替市場は堅調でしたが、コモディティについてはより低迷しました。

ランキングに関しては、グローバル・マーケット事業は、マルチディーラー電子取引プラットフォームの分野のリーダーであることを確認しました。

市場リスクの尺度である平均バリュアット・リスク（VaR。信頼区間99%、保有期間1日）は、主として金利、外国為替およびコモディティ範囲におけるリスクの低下を反映し、31百万ユーロとなりました（前四半期比0.6百万ユーロ微増）。

CIB部門－証券管理事業

当四半期は、残高および預金残高の大幅な増加ならびに好調な事業活動が顕著でした。

証券管理事業の営業収益は、当四半期に737百万ユーロとなり、力強い増加を達成しました（前年同期比+6.6%）。その要因は、正味受取利息および顧客の預金残高の増加による影響でした。

新規マンドートを、特にドイツ、フランスおよびオーストラリアにおいて締結しました。一方で、プライベートキャピタルの事業拡大も続けました。

平均残高は、主として市場の回復および新規マンドートの実施により、増加しました（前年同期比+9.4%）。取引もまた、平均ボラティリティの増加により、15.2%増加しました。

2024年度第3四半期累計期間（1-9月）のCIB部門の業績

2024年度第3四半期累計期間（1-9月）において、CIB部門の**営業収益**は、前年同期比5.0%増の13,405百万ユーロとなり、CIB部門の**営業費用**は、前年同期比3.7%増の7,801百万ユーロとなりました。ジョーズ効果はプラスで、+1.3ポイントとなり、3つの事業部門それぞれにおいて顕著でした。

CIB部門の**営業総利益**は、前年同期比6.9%増の5,604百万ユーロとなり、**リスク費用**は、主に正常債権（ステージ1および2）に対する引当金の戻入により173百万ユーロの純戻入となりました。

以上から、CIB部門の**税引前利益**は、前年同期比8.2%増の5,785百万ユーロとなりました。

コマーシャル&個人向けバンキングサービス (CPBS) 部門

2024年度第3四半期のCPBS部門の業績

当四半期において、ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業およびパーソナル・ファイナンスの業績は改善しました。CPBS部門は、アルバルおよびベルギーの市場環境の悪化に適応しています。

営業収益⁹は、6,576百万ユーロとなり、前年同期比2.6%減でした。当四半期は、アルバルにおける継続的な中古車価格の正常化およびベルギー市場の変化により、預貸利鞘および貸出利鞘が影響を受けました。アルバルへのこの影響を除くと、CPBS部門の営業収益は横ばいでした（前年同期比-0.1%）。

コマーシャル&個人向けバンキング事業の営業収益は、4,202百万ユーロとなり、微減しました（前年同期比-0.8%）が、正味利息収益は、フランス（前年同期比+1.7%）、イタリア（前年同期比+2.9%）およびルクセンブルク（前年同期比+2.5%）において若干改善しました。手数料は、イタリア（前年同期比+3.8%）、ルクセンブルク（前年同期比+4.3%）および欧州・地中海沿岸諸国（前年同期比+11.5%）において増加し、フランスではそれほどではないものの増加（前年同期比+1.4%）しました。プライベートバンキングの運用資産残高は、大幅に増加しました（2023年9月30日現在と比較して+11%）。Hello bank!は発展を続け、顧客数は3.7百万人に達しました（前年同期比+6.7%）。

専門的金融事業の営業収益は、2,374百万ユーロとなりました（前年同期比-5.7%）。アルバルの有機的収益は増加し（金融マージンおよびサービスマージンは前年同期比+15.3%）、リーシング・ソリューションズにおける組成時の利鞘は改善しました。パーソナル・ファイナンスの主要対象範囲においても良好な傾向（前年同期比+1.5%）が確認され、ジョーズ効果は極めて高水準（+2.7ポイント）で、組成時の利鞘も改善しました。Nickelは発展を続け（2024年9月30日現在、口座開設数¹⁹は約4.2百万件）、個人投資家事業は好調を維持しました。

営業費用⁹は、0.9%減少しました。ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業の営業費用は、1.9%減となり、ジョーズ効果はプラス（+0.8ポイント）でした。専門的金融事業の営業費用もまた減少しました（前年同期比-1.3%）。パーソナル・ファイナンスのジョーズ効果は、適応計画によりプラス（+2.3ポイント、主要対象範囲では+2.7ポイント）となり、リーシング・ソリューションズもプラスでした（+2.4ポイント）。

営業総利益⁹は、2,664百万ユーロとなりました（前年同期比-5.1%）。

リスク費用その他⁹は、745百万ユーロ（前年同期は762百万ユーロ）となりました。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBS部門の税引前利益²⁰は、1,873百万ユーロに達しました（前年同期比-3.0%）。

CPBS部門ーフランスのコマーシャル&個人向けバンキング (CPBF)

当四半期中、CPBFは、増収を達成し、ジョーズ効果はプラスとなりました。

顧客向け融資残高は前年同期比1.4%減でしたが、前四半期比では横ばいでした（+0.1%）。2024年度における組成件数は、2023年度の組成件数を上回りました。預金残高は、前年同期比2.4%減でしたが、当座預金を中心に前四半期比では横ばいでした（-0.4%）。定期預金は、前四半期比で減少しました。オフバランス貯蓄商品は、生命保険に支えられて、2023年9月30日現在と比較して5.0%増となり、生命保険における資金純流入は前年同累計期間（1-9月）比17.8%増となりました。

プライベートバンキングの運用資産残高は、2024年9月30日現在、140十億ユーロとなり（2023年9月30日現在と比較して+7.8%）、2024年度第3四半期累計期間（1-9月）において5.6十億ユーロの大幅な資金純流入を達成しました（前年同期比+1.1%）。

Hello bank!は顧客獲得を続け、顧客数は当四半期に1百万人を達成しました（前年同期比+23.6%）。力強い有機的成長およびOrange Bankの事業の成功がこれを後押ししました。

営業収益⁹は、1,627百万ユーロとなり、前年同期比1.6%増でした。すべての顧客セグメント（特に法人顧客）において、勢いは好調でした。正味利息収益⁹は、好調な利鞘および逆風の影響が少ないことにより1.7%増加しました。手数料⁹は、金融手数料および特に運用資産残高の伸びに後押しされ、増加しました（前年同期比+1.4%）。

営業費用⁹は、1,134百万ユーロとなり（前年同期比+0.1%）、インフレにもかかわらず、業務効率化策の継続的な影響により抑制されました。ジョーズ効果はプラスで1.5ポイントでした。

営業総利益⁹は、493百万ユーロとなりました（前年同期比+5.2%）。

リスク費用⁹は、122百万ユーロ（前年同期は117百万ユーロ）となり、顧客向け融資残高の21ベースポイント相当で、経済状況を考慮すると低水準でした。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBFの税引前利益²⁰は、327百万ユーロに達しました（前年同期比+5.7%）。

CPBS部門－BNLバンカ・コメルシアーレ（BNL bc）

BNL bcは、引き続き良好な本源的業績を示しました。

顧客向け融資残高は、前年同期比4.5%減となり、不良債権を除くと3.3%減となりました。法人向け貸出は、中長期ローンの新規組成件数が回復したことにより、前四半期比では横ばいでした。預金残高は前年同期比3.7%増となりましたが、これは、一方で、法人向けおよびプライベートバンキングの顧客の預金残高が増加し、他方で、すべての顧客セグメントにおいて預貸利鞘が回復したことによるものでした。オフバランス顧客資産は、良好な資金純流入および市場の好影響により、2023年9月30日現在と比較して9.8%増でした。当四半期におけるプライベートバンキングの資金純流入は、1.3十億ユーロとなり、大幅に増加しました（前年同期比+29%）。

営業収益⁹は、682百万ユーロとなりました（前年同期比+3.3%）。正味利息収益は、預貸利鞘により2.9%増加しましたが、取引高の減少および貸出利鞘の縮小により一部相殺されました。手数料もまた、金融手数料の増加に関連して、前年同期比3.8%増と大幅に増加しました。

営業費用⁹は、6.6%減の418百万ユーロとなりました（2023年度第3四半期における36百万ユーロのDGSへの支払い²¹を除くと1.7%増）。ジョーズ効果はこの影響を除くとプラスで、1.6ポイントでした。

営業総利益⁹は、264百万ユーロとなりました（前年同期比+24.0%）。

リスク費用⁹は、非経常的モデル効果および不良債権の売却により、前年同期比15.6%増の114百万ユーロとなりました。当四半期において、リスク費用は、顧客向け融資残高の62ベースポイント相当となり、2014年以降着実に減少しています。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のBNL bcの税引前利益²⁰は、142百万ユーロとなり、前年同期比28.9%増の大幅な増益となりました。



CPBS部門ーベルギーのコマーシャル&個人向けバンキング (CPBB)

CPBBは厳しい市場環境に適応しています。

顧客向け融資残高は、特に法人向け貸出の増加により、前年同期比**1.6%**増となりました。平均預金残高は、前年同期比**1.5%**減でした。ベルギー国債の満期時に提供された投資商品に関連して、期末預金残高は**2023年9月30日**現在と比較して**3.2%**増でした。前述の提供商品は、利益率の良い預金商品およびオフバランス商品を組み合わせており、当グループの事業部門と連携して構成されています。これは、金利低下の環境下で、顧客の利益につながるよう、中期的な商品を対象としています。法人顧客の預金残高は、前年同期比**2.3%**増でした。顧客資産は、ミューチュアル・ファンドに支えられて、全体では**2023年9月30日**現在と比較して**6.3%**増でした。プライベートバンキングの資金純流入は、**2024年1月1日**以降、**2.4**十億ユーロを達成しています。

営業収益⁹は、**8.7%**減の**926**百万ユーロとなりました（逆風²²の影響を除くと**-3.5%**）。正味利息収益⁹は、競争市場における貸出利鞘および預貸利鞘の縮小に関連して、**11.3%**減でした（逆風の影響を除くと前年同期比**-5.3%**²³）。手数料⁹は、**2.1%**減少しましたが、これは国債の発行によって、**2023年度第3四半期**の金融手数料が高水準であったことによるものでした。この影響を除くと、手数料は前年同期比**1.4%**増でした。

営業費用⁹は、節減策およびBpost bankの統合によるオペレーティングモデルの変革に関連して、前年同期比**2.8%**減の**574**百万ユーロとなりました。

営業総利益⁹は、前年同期比**16.9%**減の**352**百万ユーロとなりました。

リスク費用⁹は、**17**百万ユーロの戻入により低い水準を維持し、顧客向け融資残高の**-5**ベースポイント相当でした。これは正常債権（ステージ1および2）に対する引当金の戻入によるものでした。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の**3分の1**をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBBの税引前利益²⁰は、資産売却益により、**421**百万ユーロとなりました（前年同期比**+11.1%**）。

CPBS部門ールクセンブルクのコマーシャル&個人向けバンキング (CPBL)

CPBLの業績は、正味利息収益および手数料の好調により、引き続き非常に好調でした。

営業収益⁹は、**156**百万ユーロとなりました（前年同期比**+2.8%**）。正味利息収益⁹は、預貸利鞘（特に個人顧客向け）の堅調な回復および投資の再評価に関連して、**2.5%**増でした。CPBLは、特に法人顧客セグメントにおいて良好な手数料の増加（前年同期比**+4.3%**）を達成しました。

営業費用⁹は、インフレに関連して**3.0%**増加し、**74**百万ユーロとなりました。

営業総利益⁹は、**83**百万ユーロに増加しました（前年同期比**+2.5%**）。

リスク費用⁹は、極めて低い水準にとどまりました。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の**3分の1**をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBLの税引前利益²⁰は、**78**百万ユーロに達しました（前年同期比**+3.3%**）。

CPBS部門－欧州・地中海沿岸諸国

欧州・地中海沿岸諸国は、ポーランドにおいて好調な事業活動を達成し、他方、トルコでは市場環境の正常化が続きました。

顧客向け融資残高は、取引高の増加により、前年同期比7.3%増⁸となりました。ポーランドでは個人顧客向けローン組成は徐々に回復し、トルコでは事業活動はすべての顧客セグメントにおいて好調でした。預金残高は、トルコおよびポーランドにおける預金の増加により、前年同期比10.3%増⁸でした。

営業収益⁹は、810百万ユーロとなり、前年同期比10.8%減²⁴でした。トルコのハイパーインフレの影響を除くと、営業収益は、前年同期比4.7%増となり、かかる増加はポーランドおよびモロッコにおける利鞘の改善によるものでした。

営業費用⁹は、480百万ユーロとなり、前年同期比3.5%減²⁴でした（トルコのハイパーインフレの影響を除くと、前年同期比+8.7%）。

営業総利益⁹は、331百万ユーロとなり、前年同期比20.1%減²⁴でした（トルコのハイパーインフレの影響を除くと、前年同期比-1.1%）。

リスク費用⁹は、顧客向け融資残高の47ベースポイント相当となり、前年同期（正常債権（ステージ1および2）に対する引当金の戻入）を下回りました。

金融商品に係るリスクに関するその他の純損失⁹には、ポーランドにおけるその他の引当金による影響（-65百万ユーロ）が含まれていましたが、「ポーランドの債務者支援法」に基づき計上していた引当金の戻入（+23百万ユーロ）により一部相殺されました。

プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後の欧州・地中海沿岸諸国の税引前利益²⁰は、251百万ユーロに達し、5.7%減少²⁴しました（トルコのハイパーインフレの影響を除くと、前年同期比-5.1%）。

CPBS部門－専門的金融事業－パーソナル・ファイナンス

当四半期において、パーソナル・ファイナンスは、オペレーティングモデルの変革を続け、（i）ジョーズ効果は極めて高水準となり、（ii）主要対象範囲において好調な業績を達成しました。パーソナル・ファイナンスは、短期金利低下の恩恵を受ける見込みです。

顧客向け融資残高は、ローン組成時の選択性の向上に伴い、前年同期比3.7%増⁸でした（地理的な重点地域の転換後、主要対象範囲では前年同期比+5.2%）。組成時の利鞘は、継続的な競争圧力にもかかわらず、引き続き改善しました。

モビリティ部門のパートナーシップ戦略の実施の影響は、事業面では自動車ローン残高の比重に表れており、これは2024年9月30日現在の主要残高の44%を占めており、構造面ではリスクプロファイルを改善しました。フランスおよびスペインにおけるOrangeとのパートナーシップは、引き続き展開されました。

当四半期中、主要対象範囲において前述の事業活動の地理的な重点地域の転換が継続され、ハンガリーにおける事業売却が完了しました。この地理的な重点地域の転換には、全体的には、中東欧（ブルガリア、チェコ共和国、スロバキアおよびハンガリー）ならびにメキシコにおける事業売却に加え、ルーマニア、ブラジルおよび北欧諸国（スウェーデン、デンマークおよびノルウェー）における事業活動のランオフ化も含まれていました。

営業収益は、1,249百万ユーロとなり、前年同期比3.3%減となりましたが、主要対象範囲では中期的な資金調達コストの上昇にもかかわらず、取引の増加および価格戦略により1.5%増でした。

営業費用は、コスト節減策の影響により、5.7%減（主要対象範囲では前年同期比-1.2%）の672百万ユーロとなりました。その結果、ジョーズ効果は当四半期において極めて高水準（+2.3ポイント、主要対象範囲では+2.7ポイント）でした。

営業総利益は、0.5%減少し、577百万ユーロとなりました。

リスク費用は、特にリスクプロファイルの構造的改善により、380百万ユーロ（前年同期は397百万ユーロ）となりました。リスク費用は、2024年9月30日現在、顧客向け融資残高の140ベースポイント相当でした。

以上から、税引前利益は、関連会社の業績の減少および継続的な戦略的重点地域の転換により、154百万ユーロとなり、21.9%減と大幅に減少しました。税引前利益は、主要対象範囲では、前年同期比7.6%増でした。

CPBS部門－専門的金融事業－アルバルとリーシング・ソリューションズ

当四半期中、アルバルでは、（i）金利マージンおよびサービスマージンの改善に示される持続的な事業活動レベル、ならびに（ii）中古車価格の正常化の影響が特徴的でした。当四半期中、リーシング・ソリューションズの営業収益は増加しました。

アルバルでは、中古車価格の正常化が続き、価格に悪影響を及ぼしました。しかしながら、販売台数の影響は良好でした（販売台数は、前年同期の87,000台に対し、当四半期は117,000台）。アルバルのファイナンスフリートの増加（2023年9月30日現在と比較して+5.8%²⁵）およびファイナンスリース残高の増加（前年同期比+20.1%）に示されるように、事業の勢いは続きました。個人顧客向けフリート（2023年9月30日現在と比較して+17.1%）は、フランスにおけるHyundai Motorsとの戦略的パートナーシップの更新を含む、自動車メーカーとの提携の進展により拡大しました。

リーシング・ソリューションズのファイナンスリース残高は、前年同期比2.8%増となり、利鞘も改善しました。事業活動も好調で、設備市場における生産量は前年同期比10.5%増となりました。当四半期において、CNHおよびIveco Groupの2社の製造業者との間でパートナーシップが更新されましたが、当該パートナーシップは、欧州9ヶ国を拠点とするCNH Industrial Capital Europeの合併事業により、1997年以来大幅に拡大されてきました。

アルバルとリーシング・ソリューションズの営業収益は合計で857百万ユーロとなり、10.6%減となりました。これは、前述のアルバルにおける中古車価格の傾向の影響によるものですが、有機的営業収益（金利マージンおよびサービスマージン）の15.3%の増加ならびにリーシング・ソリューションズにおける販売台数の影響および利鞘の改善による営業収益の増加により一部相殺されました。

営業費用は、インフレおよび事業の勢いにより、3.6%増の381百万ユーロとなりました。

アルバルとリーシング・ソリューションズの税引前利益は、440百万ユーロとなりました（前年同期比-20.9%）。

CPBS部門－専門的金融事業－ニューデジタル事業と個人投資家事業

当四半期の事業は好調でした。

Nickelは、欧州における販売拠点の展開が顕著であった四半期を経て、2024年9月30日現在、フランスおよびポルトガルにおいて、最大の当座預金口座ネットワークを有しています（2023年9月30日現在と比較して+13.7%）。同時に、Nickelは、サービスおよび商品の提供を発展させ、フランスに続き、スペインでも100%のデジタル口座開設経路を実施し、デジタル化を継続しました。



Floaに関しては、フランスで多くのパートナーシップが締結され、事業は国際的に発展しています（アクティブ・パートナーシップの数は、前年同期比2.3倍）。

個人投資家事業の運用資産残高は大幅に増加し（2023年9月30日現在と比較して+13.2%）、これは金融市場の動向の好影響および高水準の取引件数によるものでした。

以上から、営業収益⁹は、前年同期と比較して0.7%増の268百万ユーロとなりました。これは、（i）個人投資家事業の金利環境に対する営業収益の堅調な回復、（ii）ニューデジタル事業の継続的な勢い、ならびに（iii）Nickelの効率的な有機的成長を反映していました。

営業費用⁹は、事業開発戦略により180百万ユーロとなりました（前年同期比+6.1%）。

営業総利益⁹は88百万ユーロとなり（前年同期比-8.8%）、リスク費用⁹は27百万ユーロ（前年同期は29百万ユーロ）となりました。

以上から、ドイツ国内プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のニューデジタル事業と個人投資家事業の税引前利益²⁰は、前年同期比9.2%減の59百万ユーロとなりました。

2024年度第3四半期累計期間（1-9月）のCPBS部門の業績

当第3四半期累計期間（1-9月）において、営業収益⁹は20,026百万ユーロとなりました（前年同期比-0.9%）。アルバルにおける中古車価格の正常化の影響を除くと、営業収益は1.2%増加しました。当第3四半期累計期間（1-9月）において、コマーシャル&個人向けバンキング事業（前年同期比+0.6%）およびニューデジタル事業と個人投資家事業（前年同期比+5.3%）は、ともに好調な業績を達成しました。しかしながら、専門的金融事業の営業収益は、3.3%減少しました。

営業費用⁹は、12,382百万ユーロとなり、前年同期比2.6%増でした。

営業総利益⁹は、7,644百万ユーロとなり、前年同期比6.0%減でした。

リスク費用その他⁹は、フランスにおける特殊な信用状況および欧州・地中海沿岸諸国におけるベース効果により、2,387百万ユーロ（前年同期は2,016百万ユーロ）となりました。

税引前利益²⁰は、5,186百万ユーロ（前年同期は6,047百万ユーロ）となりました。

インベストメント&プロテクションサービス（IPS）部門

2024年度第3四半期のIPS部門の業績

IPS部門は、アセット・マネジメント事業および保険事業において非常に好調な四半期業績を達成し、成長市場への投資を強化しました。

2024年9月30日現在の運用資産残高²⁶は1,344十億ユーロ（2023年12月31日現在と比較して+8.7%、2024年6月30日現在と比較して+2.4%）となりました。当第3四半期累計期間（1-9月）においては、（i）資金純流入（+55.3十億ユーロ）および（ii）市場成長（+54.6十億ユーロ）の影響が相まって生じた結果を反映したものでした。資金純流入は、流通網の多様化により、非常に好調でした。



保険事業では、特に海外からの資金純流入と、保障保険業務の全商品にわたる好調な伸びを反映し、貯蓄型保険業務の総資金流入が増加しました（前年同期比+13.0%）。

アセット・マネジメント事業は、好調な事業活動により、特に中長期ファンドにおいて持続的な資金純流入を達成し、運用資産残高の増加により手数料も増加しました。

ウェルス・マネジメント事業の営業収益は、前年同期の高水準と比較して横ばいでした。コマーシャル&個人向けバンキング事業および大口顧客における運用資産残高が増加しました。事業活動は特にアジアにおいて好調で、取引手数料はすべての地域で増加しました。2024年9月30日現在の運用資産残高²⁶（1,344十億ユーロ）の内訳は、アセット・マネジメント事業およびリアル・エステート²⁷が616十億ユーロ、ウェルス・マネジメント事業が456十億ユーロ、ならびに保険事業が272十億ユーロでした。

営業収益合計は1,489百万ユーロ（前年同期比+4.9%）となりました。これは、保険事業およびアセット・マネジメント事業における好調な勢いに支えられました。ウェルス・マネジメント事業の営業収益は、前年同期の高水準と比較して横ばいでした。リアル・エステートの営業収益は、減少しました。

営業費用は、881百万ユーロとなり、効率化策と的を絞った投資の複合的影響により、前年同期と比較して0.4%減少しました。ジョーズ効果は極めて高水準（+5.2ポイント）でした。

営業総利益は、前年同期比13.5%増の609百万ユーロとなりました。

税引前利益は、前年同期比6.7%増の647百万ユーロとなりました。これには、関連会社の業績の減少が反映されました。

また、IPS部門の当四半期は、中期的な成長源としてのプラットフォームの強化を目的とした2件の外部成長取引である（i）CardifによるAXA IM⁶の買収計画およびAXAとの長期的パートナーシップの発表、ならびに（ii）ドイツにおけるHSBCのプライベートバンキング事業²⁸の買収計画が行われたことが特徴的でした。

IPS部門－保険事業

当四半期は、貯蓄型保険業務の総資金流入の増加および保障保険業務の大幅な増加が顕著でした。

貯蓄型保険業務の業績は非常に好調で、総資金流入は大幅に増加しました（前年同期比+13.0%）。資金純流入は、社内ネットワークおよび外部販売網を通じた好調な事業活動を反映し、大幅に増加しました。BCC Vitaの連結は、2024年度第2四半期から実施されており、BCC BANCA ICCREAのネットワークにおいて順次サービスが展開されています。

保障保険業務の総収入保険料は、前年同期と比較して12.5%増加しました。国際的には、パートナーシップおよびマルチ・チャンネル・モデルの強さが原動力となり、引き続き好調に拡大しました。また、当四半期は、Simulassurのデジタル・プラットフォーム（Groupe Magnolia）との返済保証保険（CPI）におけるフランスでの新たなパートナーシップを締結し、サービスを充実させたことが特徴的でした。

全体では、フランスにおける好調な業績とより良好な金利環境により、営業収益は6.4%増加して、570百万ユーロとなりました。

営業費用は209百万ユーロとなり、事業開発および継続的な効率化策に伴い、抑制されたペースで増加しました。ジョーズ効果はプラス（+3.3ポイント）でした。

保険事業の税引前利益は、407百万ユーロとなり、関連会社の業績の減少に伴い、前年同期と比較して1.0%減少しました。



IPS部門－ウェルス&アセット・マネジメント事業²⁹

当四半期は、資産および営業利益が大幅に増加しました。

ウェルス・マネジメント事業は、すべての顧客セグメントにおいて好調な資金純流入（当四半期は5.8十億ユーロ）を達成しました。良好な資金純流入および市場の拡大により、運用資産残高は増加しました。事業活動は、コマーシャル&個人向けバンキング事業において、また国際的にも、良好な水準での取引活動が顕著でした。

アセット・マネジメント事業は、中長期ファンドに支えられ、好調な資金流入（当四半期は6.6十億ユーロ）を達成しました。当四半期は、（i）一部当グループのネットワークとの提携により組成された中小企業デット・ファンドⅢの私募債による資金調達成功（約741百万ユーロのコミットメント）および（ii）一部プライベートバンキングの顧客を対象とした初のELTIF 2.0ラベル付きエバーグリーン私募債クレジット・ファンドのローンチが特徴的でした。

営業収益は、アセット・マネジメント事業³⁰の大幅な増加（前年同期比+8.9%）およびプリンシパル・インベストメントにおける増加により、前年同期比3.9%増の919百万ユーロとなりました。ウェルス・マネジメント事業の営業収益は、手数料収入の力強い勢いにかかわらず、前年同期の高水準と比較して横ばいでした（前年同期比-0.5%）。リアル・エステートの営業収益は、市場低迷により減少しました。

営業費用は、継続的な効率化策により、672百万ユーロとなりました（前年同期比-1.4%）。ジョーズ効果は、極めて高水準（+5.3ポイント）でした。以上から、ウェルス&アセット・マネジメント事業の税引前利益は、239百万ユーロとなり、前年同期比23.0%増でした。

2024年度第3四半期累計期間（1-9月）のIPS部門の業績

2024年度第3四半期累計期間（1-9月）において、**営業収益は4,381百万ユーロ**となり、前年同期比2.9%増でした。

営業費用は、2,643百万ユーロとなり、前年同期と比較して横ばいでした。**営業総利益は、1,738百万ユーロ**となり、前年同期比7.8%増でした。**税引前利益は、1,857百万ユーロ**となり、前年同期比2.9%増でした。

コーポレート・センター

2024年度第3四半期における保険事業に関連する修正再表示

これらの修正再表示により生じた営業収益は、**-262百万ユーロ**（前年同期は**-239百万ユーロ**）、営業費用は**272百万ユーロ**（前年同期は**236百万ユーロ**）、税引前利益は**10百万ユーロ**（前年同期は**-2百万ユーロ**）となりました。

2024年度第3四半期のコーポレート・センターの業績（保険事業に関連する修正再表示を除く）

営業収益は**65百万ユーロ**（前年同期は**-17百万ユーロ**）となり、営業費用は**213百万ユーロ**（前年同期は**220百万ユーロ**）となりました。後者には、**64百万ユーロ**の事業再編費用と事業適応費用（前年同期は**41百万ユーロ**）および**81百万ユーロ**のIT強化費用（前年同期は**87百万ユーロ**）の影響が含まれています。

リスク費用は**-3百万ユーロ**（前年同期は**7百万ユーロ**）となりました。以上から、保険事業に関連する修正再表示を除くコーポレート・センターの税引前利益は、**-130百万ユーロ**となりました。



- 1 2024年2月29日に公表された四半期情報の修正再表示に基づいている。調整後純利益は、2023年度の配当の算出の基礎となるものであり、Bank of the Westの売却による影響および単一破綻処理基金の積立への拠出後の当該グループの本源的業績を反映し、特別損益項目を除いている
- 2 2023年度第3四半期（調整後）と2024年度第3四半期のグループ全体の営業収益の増加分から、2023年度第3四半期（調整後）と2024年度第3四半期のグループ全体の営業費用の増加分を差し引いたもの。2024年度決算の方向性については、2023年度（調整後）と2024年度のグループ全体の営業収益の増加分から、2023年度（調整後）と2024年度のグループ全体の営業費用の増加分を差し引いたもの
- 3 ジョーズ効果は、2023年度に支払われたイタリアにおけるDGS税を除くと+0.5ポイント。ジョーズ効果：2023年度第3四半期（調整後）と2024年度第3四半期のグループ全体の営業収益の増減分から、2023年度第3四半期（調整後）と2024年度第3四半期のグループ全体の営業費用の増減分を差し引いたもの
- 4 リスク費用には、「金融商品に係るリスクに関するその他の純損失」は含まない
- 5 期末の1株当たり純利益は、当四半期の永久最劣後債に係る配当を除いた純利益および期末平均発行済株式数に基づき算出されている
- 6 このプロジェクトは依然として、関係する従業員に関して適用ある手続ならびに管轄権を有する規制当局および競争当局の承認を必要とする
- 7 期末の再評価後の有形純資産額（単位：ユーロ）
- 8 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く
- 9 プライベートバンキングの100%を含む（フランスのPEL/CELの影響を除く）
- 10 リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツを除く
- 11 Uksibbank株式の60%を保有。残りの40%は欧州復興開発銀行が保有
- 12 規則（EU）2019/876に従って算定
- 13 規則（CRR）575/2013第451a条に従って算定
- 14 健全性基準（特に米国基準。日中支払システムの需要を除く）を考慮した流動性市場資産または中央銀行の適格（相殺能力）を満たすもの
- 15 出所：Dealogic社、2024年度第3四半期累計期間（1-9月）時点のEMEA地域のDCM、ブックランナー・ランキング（取引高ベース）
- 16 出所：Dealogic社、2024年度第3四半期累計期間（1-9月）時点のDebt Capital Markets rankingsおよびSyndicated Loans、ブックランナー・ランキング（取引高ベース）
- 17 出所：Coalition Greenwich 1H24 Competitor Analytics、同順位で第1位獲得。EMEA地域（欧州、中東およびアフリカ）における2024年度上半期のTransaction Banking（Correspondent Bankingを除くCash ManagementおよびTrade Finance）におけるCoalition Index上位12位の銀行の営業収益に基づくランキング
- 18 出所：Dealogic社、All ESG Bonds & Loans rankings、EMEA地域およびグローバルのブックランナー・ランキング（取引高ベース）
- 19 開業以来の全国における口座開設数
- 20 プライベートバンキングの3分の2を含む（フランスのPEL/CELの影響を除く）
- 21 2023年度第3四半期および第4四半期に計上
- 22 CPBBに関連する逆風：当四半期は前年同期比-53百万ユーロ
- 23 法定準備金への付利の終了およびベルギー国債の影響（当四半期は前年同期比-43百万ユーロ）
- 24 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く。ただし、トルコについてはIAS第29号により、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む
- 25 期末におけるフリート契約台数の増加
- 26 分配金を含む
- 27 リアル・エステートの運用資産残高：24十億ユーロ - プライベート・アセットの設立に伴い、プリンシパル・インベストメンツの運用資産残高をアセット・マネジメント事業に統合
- 28 通常適用ある認可を取得することを条件とする
- 29 アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツ
- 30 リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツを除く



連結損益計算書 - グループ

(単位：百万ユーロ)	3Q24	3Q23調整後	3Q24 / 3Q23調整後	3Q23	9M24	9M23調整後	9M24 / 9M23調整後	9M23
グループ								
営業収益	11,941	11,629	+2.7%	11,581	36,694	35,974	+2.0%	34,976
営業費用および減価償却費	-7,213	-7,093	+1.7%	-7,093	-22,326	-22,035	+1.3%	-23,173
営業総利益	4,728	4,536	+4.2%	4,488	14,368	13,939	+3.1%	11,803
リスク費用	-729	-734	-0.7%	-734	-2,121	-1,935	+9.6%	-1,935
金融商品に係るリスクに関するその他の純損失	-42	0	n.s.	0	-138	0	n.s.	-130
営業利益	3,957	3,802	+4.1%	3,754	12,109	12,004	+0.9%	9,738
持分法適用会社投資損益	224	193	+16.1%	193	609	520	+17.1%	520
その他の営業外項目	-121	-133	-9.0%	-133	127	-9	n.s.	-9
税引前利益	4,060	3,862	+5.1%	3,814	12,845	12,515	+2.6%	10,249
法人税	-1,051	-1,060	-0.8%	-1,060	-3,103	-2,929	+5.9%	-2,929
少数株主帰属純利益	-141	-93	+51.6%	-93	-376	-361	+4.2%	-361
非継続事業の純利益	0	0	n.s.	0	0	0	n.s.	2,947
株主帰属純利益	2,868	2,709	+5.9%	2,661	9,366	9,225	+1.5%	9,906
コスト/インカム率	60.4%	61.0%	-0.6 pt	61.2%	60.8%	61.3%	-0.5 pt	66.3%

2024年度第3四半期事業別業績

	コマーシャル& 個人向け バンキングサー ビス部門 (プラ イベートバンキ ングの2/3)	インベストメ ント&プロテ クションサー ビス部門	ホールセール バンキング 部門	事業部門合計	コーポレート ・センター	グループ 合計
(単位：百万ユーロ)						
営業収益	6,402	1,489	4,247	12,139	-198	11,941
対前年同期 (調整後) 比	-2.5%	+4.9%	+9.0%	+2.1%	-22.8%	+2.7%
対前四半期比	-2.6%	+1.1%	-5.2%	-3.1%	-22.6%	-2.7%
営業費用および減価償却費	-3,820	-881	-2,571	-7,272	59	-7,213
対前年同期 (調整後) 比	-1.0%	-0.4%	+8.6%	+2.3%	n.s.	+1.7%
対前四半期比	-1.8%	+0.1%	+3.3%	+0.2%	-30.5%	+0.5%
営業総利益	2,582	609	1,677	4,867	-139	4,728
対前年同期 (調整後) 比	-4.8%	+13.5%	+9.7%	+1.9%	-41.9%	+4.2%
対前四半期比	-3.7%	+2.7%	-15.8%	-7.6%	-18.7%	-7.2%
リスク費用	-747	0	-27	-774	3	-771
対前年同期 (調整後) 比	-1.9%	n.s.	n.s.	+6.4%	n.s.	+5.0%
対前四半期比	-18.5%	-84.1%	n.s.	-4.3%	n.s.	-8.5%
営業利益	1,835	609	1,649	4,093	-136	3,957
対前年同期 (調整後) 比	-5.9%	+16.5%	+4.7%	+1.1%	-44.6%	+4.1%
対前四半期比	+4.0%	+2.3%	-21.4%	-8.2%	-33.7%	-6.9%
持分法適用会社投資損益	163	42	6	211	13	224
その他の営業外項目	-117	-4	-3	-124	3	-121
税引前利益	1,882	647	1,652	4,181	-121	4,060
対前年同期 (調整後) 比	-2.5%	+6.7%	+6.3%	+2.2%	-47.0%	+5.1%
対前四半期比	+4.6%	+1.4%	-21.3%	-7.8%	+6.4%	-8.2%

	コマーシャル& 個人向け バンキングサー ビス部門 (プラ イベートバンキ ングの2/3)	インベストメ ント&プロテ クションサー ビス部門	ホールセール バンキング 部門	事業部門合計	コーポレート ・センター	グループ 合計
(単位：百万ユーロ)						
営業収益	6,402	1,489	4,247	12,139	-198	11,941
前年同期 (調整後)	6,569	1,420	3,896	11,885	-256	11,629
前四半期	6,572	1,472	4,481	12,525	-255	12,270
営業費用および減価償却費	-3,820	-881	-2,571	-7,272	59	-7,213
前年同期 (調整後)	-3,858	-884	-2,368	-7,109	16	-7,093
前四半期	-3,892	-879	-2,489	-7,260	84	-7,176
営業総利益	2,582	609	1,677	4,867	-139	4,728
前年同期 (調整後)	2,711	536	1,528	4,775	-239	4,536
前四半期	2,681	593	1,992	5,265	-171	5,094
リスク費用	-747	0	-27	-774	3	-771
前年同期 (調整後)	-761	-13	47	-727	-7	-734
前四半期	-917	2	106	-809	-34	-843
営業利益	1,835	609	1,649	4,093	-136	3,957
前年同期 (調整後)	1,950	523	1,575	4,048	-246	3,802
前四半期	1,764	595	2,097	4,456	-205	4,251
持分法適用会社投資損益	163	42	6	211	13	224
前年同期 (調整後)	92	80	6	177	16	193
前四半期	83	44	4	130	34	164
その他の営業外項目	-117	-4	-3	-124	3	-121
前年同期 (調整後)	-113	3	-26	-136	3	-133
前四半期	-48	-1	-2	-51	58	7
税引前利益	1,882	647	1,652	4,181	-121	4,060
前年同期 (調整後)	1,929	606	1,555	4,089	-227	3,862
前四半期	1,798	638	2,099	4,535	-113	4,422
法人税						-1,051
少数株主帰属純利益						-141
非継続事業の純利益						0
株主帰属純利益						2,868

2024年度1-9月期事業別業績

	コマーシャル& 個人向け バンキングサービ ス部門 (プライベ ートバンキングの 2/3)	インベストメント &プロテクション サービス部門	ホールセール バンキング 部門	事業部門合計	コーポレート ・センター	グループ 合計	
(単位：百万ユーロ)							
営業収益	19,481	4,381	13,405	37,268	-574	36,694	
	対前年同期 (調整後) 比	-0.9%	+2.9%	+5.0%	+1.6%	-19.7%	+2.0%
営業費用および減価償却費	-12,085	-2,643	-7,801	-22,529	203	-22,326	
	対前年同期 (調整後) 比	+2.5%	-0.1%	+3.7%	+2.6%	n.s.	+1.3%
営業総利益	7,397	1,738	5,604	14,739	-371	14,368	
	対前年同期 (調整後) 比	-6.0%	+7.8%	+6.9%	+0.1%	-52.9%	+3.1%
リスク費用	-2,389	-2	173	-2,217	-42	-2,259	
	対前年同期 (調整後) 比	+18.9%	-88.4%	+39.0%	+16.6%	+23.6%	+16.7%
営業利益	5,008	1,736	5,777	12,522	-413	12,109	
	対前年同期 (調整後) 比	-14.6%	+8.7%	+7.7%	-2.4%	-49.7%	+0.9%
持分法適用会社投資損益	342	126	12	480	129	609	
その他の営業外項目	-151	-4	-5	-160	287	127	
税引前利益	5,199	1,857	5,785	12,841	4	12,845	
	対前年同期 (調整後) 比	-14.0%	+2.9%	+8.2%	-2.7%	n.s.	+2.6%
法人税						-3,103	
少数株主帰属純利益						-376	
非継続事業の純利益						0	
株主帰属純利益						9,366	

連結貸借対照表 – 2024年9月30日現在

(単位：百万ユーロ)	2024年9月30日現在	2023年12月31日現在
資産		
預金および中央銀行預け金	186,953	288,259
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産		
トレーディング目的の有価証券	311,704	211,634
貸出金および売戻契約	285,893	227,175
デリバティブ金融商品	282,380	292,079
ヘッジ目的デリバティブ	20,100	21,692
その他の包括利益を通じ公正価値で測定する金融資産		
負債性金融商品	66,944	50,274
資本性金融商品	1,606	2,275
償却原価で測定する金融資産		
金融機関貸出金および債権	58,998	24,335
顧客貸出金および債権	874,996	859,200
負債性金融商品	139,177	121,161
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	(1,035)	(2,661)
保険事業に関連する投資およびその他の資産	273,412	257,098
当期および繰延税金資産	6,761	6,556
未収収益およびその他の資産	179,195	170,758
持分法適用会社投資	7,206	6,751
有形固定資産および投資不動産	48,880	45,222
無形固定資産	4,326	4,142
のれん	5,590	5,549
資産合計	2,753,086	2,591,499
負債		
中央銀行預金	3,254	3,374
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債		
トレーディング目的の有価証券	102,009	104,910
預金および買戻契約	377,496	273,614
負債証券	101,091	83,763
デリバティブ金融商品	271,856	278,892
ヘッジ目的デリバティブ	34,658	38,011
償却原価で測定する金融負債		
金融機関預金	85,469	95,175
顧客預金	1,011,422	988,549
負債性金融商品	203,993	191,482
劣後債	30,160	24,743
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	(11,395)	(14,175)
当期および繰延税金負債	4,523	3,821
未払費用およびその他の負債	147,000	143,673
保険契約に関連する負債	233,396	218,043
保険事業に関連する金融負債	18,390	18,239
偶発債務等引当金	9,035	10,518
負債合計	2,622,357	2,462,632
連結資本		
資本金、払込剰余金、および利益剰余金	118,840	115,809
親会社株主帰属当期純利益	9,366	10,975
資本金、払込剰余金、利益剰余金、および親会社株主帰属当期純利益合計	128,206	126,784
資本に直接認識される資産および負債の変動	(3,245)	(3,042)
親会社株主資本	124,961	123,742
少数株主資本	5,768	5,125
連結資本合計	130,729	128,867
負債および連結資本合計	2,753,086	2,591,499



代替的業績指標（ALTERNATIVE PERFORMANCE INDICATORS） - フランス金融市場庁（AMF）の一般規則第223-1条に基づく開示

代替的業績指標	定義	使用理由
<p>保険事業の損益の合計（営業収益、営業費用、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）</p>	<p>保険事業の損益の合計（営業収益、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）（なお、コーポレート・センターに振り替えられる、一部の資産の純損益を通じた公正価値会計（IFRS第9号）により生じるボラティリティを除く。売却時に実現した損益および潜在的な長期減価償却費は、保険事業の損益に含まれる。）</p> <p>グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示</p>	<p>営業上の本源的業績を反映した保険事業の業績の表示（技術面および財政面）</p>
<p>コーポレート・センターの損益の合計</p>	<p>2023年1月1日から、IFRS第9号が保険事業に適用されるのと同時にIFRS第17号（保険契約）が適用されることを受けて、「コーポレート・センター（保険事業に関連するボラティリティの修正再表示（IFRS第9号）および付随費用（内部の販売会社）を含む）」の損益の合計をいい、以下を含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> IFRS第9号公正価値会計に基づく一部の保険資産の認識により生じた業績のボラティリティの、コーポレート・センターの営業収益への修正再表示 「保険事業に帰属する」とみなされる営業費用から内部マージンを差し引いた額は、営業収益から差し引いて計上され、営業費用としては計上されない。これらの会計項目は、保険契約を販売する保険事業および当グループの事業体（保険事業を除く）（すなわち内部の販売会社）にのみ関係し、営業総利益には影響を与えない。内部販売契約に関連する項目による影響は、「コーポレート・センター」に帰属する。 <p>グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示</p>	<p>個々の事業の業績の読み方を混乱させないための、「保険事業に帰属する」営業費用が内部販売契約に及ぼす影響のコーポレート・センターへの振替</p>
<p>事業部門の損益の合計（各事業部門の営業収益、正味利息収益、営業費用、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）</p>	<p>コマーシャル&個人向けバンキングサービス部門、インベストメント&プロテクションサービス部門およびホールセールバンキング部門の損益の合計（なお、コマーシャル&個人向けバンキング事業の損益の合計には、フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルク、ドイツ、ポーランドおよびトルコのプライベートバンキングの2/3を含む）</p> <p>BNPパリバ・グループの損益の合計 =事業部門 + コーポレート・センターの損益の合計</p> <p>グループの調整後の損益の合計は「コア事業別業績」の表で開示</p> <p>コマーシャル&個人向けバンキングにおける正味利息収益は、正味受取利息（財務諸表の注記3.aに定義される）のみならずその他の収益（財務諸表の注記3.c、3.dおよび3.eに定義される）を含むが、手数料（財務諸表の注記3.bに定義される）を除く。</p>	<p>BNPパリバ・グループの本業の業績を示す指標</p>



代替的業績指標	定義	使用理由
	<p>コマーシャル&個人向けバンキングまたは保険契約を販売する専門的金融事業の損益の合計は、「保険事業に帰属する」とみなされる営業費用に対するIFRS第17号の適用（営業収益から差し引いて計上され、営業費用としては計上されない）による会計表示への影響を除く。この影響はコーポレート・センターに及ぶ。</p>	
<p>プライベートバンキングの100%を含むコマーシャル&個人向けバンキング事業の損益の合計</p>	<p>プライベートバンキング全体の損益を含むコマーシャル&個人向けバンキング事業の損益の合計</p> <p>グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示</p>	<p>コマーシャル&個人向けバンキング事業の業績を示す指標であり、プライベートバンキングの業績の全部を含む（プライベートバンキングは、コマーシャル&個人向けバンキング(2/3)とウェルス・マネジメント(1/3)の共同責任のもとに置かれるが、その割合に基づきウェルス・マネジメントに損益を配分する前の数値)</p>
<p>PEL/CELの影響を除く損益の合計（各事業部門の営業収益、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）</p>	<p>PEL/CELの影響を除く損益の合計</p> <p>グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示</p>	<p>PEL/CEL口座の全存続期間にわたり発生するリスクに対する引当金変動を除く、当期の損益の合計を表す指標</p>
<p>コスト/インカム率</p>	<p>営業費用を営業収益で除した比率</p>	<p>銀行業務における業務の効率性を表す指標</p>
<p>リスク費用+期首顧客向け融資残高（単位：パーセントポイント）</p>	<p>リスク費用（単位：百万ユーロ）を期首の顧客向け融資残高で除した比率</p> <p>リスク費用には、金融商品に係るリスクに関するその他の純損失は含まない。</p>	<p>事業別の貸出金残高総額におけるリスクレベルの指標</p>
<p>営業費用の変化（IFRIC第21号を除外後）</p>	<p>IFRIC第21号に基づく税金・拠出金を除いた上で、営業費用の変化を算定</p>	<p>IFRIC第21号に基づく税金および拠出金は、事業年度に関わるほぼ全額を上半期に計上するが、その影響を排除し、他の四半期との比較の際の混乱を避け、当事業年度の営業費用の推移をとらえる指標</p>
<p>自己資本利益率（ROE）</p>	<p>ROEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示</p>	<p>BNPパリバ・グループの自己資本の収益力を表す指標</p>
<p>有形自己資本利益率（ROTE）</p>	<p>ROTEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示</p>	<p>BNPパリバ・グループの有形自己資本の収益力を表す指標</p>
<p>当グループの調整後純利益</p>	<p>2023年2月1日のBank of the Westの売却後であるだけでなく、単一破綻処理基金の増額の最終年度と予想され、特別損益項目が特徴的な重要な年度である2023年度のグループの本源的業績を反映するために、2023年2月に行われた発表に基づき調整された純利益までの損益の合計。2023年度決算資料に詳述されている調整は以下の通りである。</p> <p>- 予想される2023年度における単一破綻処理基金の増額終了の影響を加味する。</p>	<p>Bank of the Westの売却による影響が生じた後の重要な年度であり、単一破綻処理基金への拠出の増額の最終年度と予想され、特別損益項目が特徴的である2023年度における、BNPパリバ・グループの本源的業績を反映した純利益を表す指標</p>



代替的業績指標	定義	使用理由
	<ul style="list-style-type: none"> - 売却予定の企業の純利益（IFRS第5号の適用）（特に、Bank of the Westの売却による譲渡益）およびBank of the Westの売却に関連する追加的項目を除外する。 - 2022年度第4四半期に欧州中央銀行が決定したTLTROの条件変更に伴うヘッジ調整による一時的なマイナス影響等の特別損益項目および訴訟に対する特別引当金を除外する。 <p>調整後純利益は、2023年度の通常分配の計算および2023年度のグループの業績を観察するために使用される。</p>	
一時項目を除く当グループの純利益	<p>一時項目を除いて算定された株主帰属純利益</p> <p>一時項目の詳細については、決算資料に添付された「主な一時項目」で開示</p>	<p>多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を除外した、BNPパリバ・グループの純利益を表す指標。除外される項目の主なものに、事業再編、事業適応、IT強化および事業変革費用がある。</p>
不良債権カバー率	<p>金融資産（ステージ3）の引当金と当該資産の減損後残高（ステージ3）との関係を表す指標。対象となる資産は、バランスシート上およびオフバランスシートの債権を含み、受け取った担保と相殺する。顧客向けおよび金融機関向け債権には、償却原価で測定される負債および資本を通じて公正価値で測定する有価証券を含む（保険事業を除く）。</p>	<p>不良債権に対する引当の状況を表す指標</p>



比較分析 – 連結範囲の変更および為替レート変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。

企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。

事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。

連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。

為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算はすべて、会社の報告通貨を基準に行う。

注：

銀行業務純益：本資料全体にわたり、「銀行業務純益」および「営業収益」は同じ意味で使われている。

営業費用：従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他営業費用、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費ならびに不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている。

以下の3つの事業部門がある。

- **ホールセールバンキング (CIB) 部門**：グローバル・バンキング事業、グローバル・マーケット事業および証券管理事業
- **コマーシャル&個人向けバンキングサービス (CPBS) 部門**：
 - コマーシャル&個人向けバンキング事業（フランス、ベルギー、イタリア、ルクセンブルクおよび欧州・地中海沿岸諸国）
 - 専門的金融事業—アルバルとリーシング・ソリューションズ、パーソナル・ファイナンス、ニューデジタル事業（Nickel、Lyf等を含む）および個人投資家事業
- **インベストメント&プロテクションサービス (IPS) 部門**：保険事業およびウェルス&アセット・マネジメント事業（ウェルス・マネジメント事業、アセット・マネジメント事業、リアル・エステートおよびプリンシパル・インベストメンツを含む）



本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。

2024年2月29日、BNPパリバは、特に、2024年1月1日付での単一破綻処理基金（SRF）の積立終了、2024年以降に年間約200百万ユーロと見積もられる地方銀行税への同様の拠出が想定されていること、および2023年度第4四半期より、リスク費用から分離された別個の会計項目である「金融商品に係るリスクに関するその他の純損失」を反映するため、2023年度の四半期の数値を修正再表示したものを公表しました。本プレスリリースに記載されている数値には、この修正再表示が反映されています。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれていません。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNPパリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNPパリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルまたはBNPパリバの主要地域市場における経済状況の変化、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。したがって、実際の業績は、様々な要因により、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは異なる可能性があります。これらの要因には、特に、i) BNPパリバの目標達成能力、ii) 高金利の長期化または大幅な利下げの可能性の有無にかかわらず、中央銀行の金利政策による影響、iii) 自己資本および流動性に関する規制の変更、iv) インフレの高止まりの長期化またはインフレの再燃およびその影響、v) 特にウクライナ侵攻および中東における紛争に関連する、様々な地政学的不確実性および影響、またはvi) 本プレスリリースに記載されている事項等が含まれます。

BNPパリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正または更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス（Supervisory Review and Evaluation Process : SREP）」は欧州中央銀行（ECB）により毎年実施されますが、BNPパリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれるBNPパリバ以外の第三者に関わる情報または外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独自に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表明または保証を明示あるいは示唆してはおらず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に依拠することはできません。BNPパリバまたはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースもしくはその内容の使用により生ずる、または本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。

2024年度第2四半期の損益計算書に記載されている指標の増減率は、2024年2月29日に公表された四半期の修正再表示後の数値を用いて、2023年度第2四半期の調整後の損益計算書を参照して算出されています。2023年度の調整後純利益は、2023年度の配当の算出の基礎となるものであり、Bank of the Westの売却による影響および単一破綻処理基金の積立への拠出後の当グループの本源的業績を反映し、特別損益項目を除いています。

BNPパリバの2024年度第3四半期および2024年度第3四半期累計期間（1-9月）の財務情報の開示は、本プレスリリース、添付資料および四半期情報で構成されています。四半期情報の詳細は、以下のアドレスより入手できます。<https://invest.bnpparibas/document/3q24-quarterly-series> 法令上要求される開示情報はすべて、登録書類（universal registration document）を含めて、<https://invest.bnpparibas.com>の「Results（業績）」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典L.451-1-2条およびフランス金融市場庁（Autorité des Marchés Financiers）の一般規則第222-1条以降の規定に従い、BNPパリバが公表しています。



Investor Relations

Bénédicte Thibord - benedicte.thibord@bnpparibas.com

Equity

Raphaëlle Bouvier-Flory - raphaelle.bouvierflory@bnpparibas.com

Lisa Bugat - lisa.bugat@bnpparibas.com

Didier Leblanc - didier.m.leblanc@bnpparibas.com

Olivier Parenty - olivier.parenty@bnpparibas.com

Debt & Rating agencies

Didier Leblanc - didier.m.leblanc@bnpparibas.com

Olivier Parenty - olivier.parenty@bnpparibas.com

Retail & ESG

Antoine Labarsouque - antoine.labarsouque@bnpparibas.com

E-mail: investor.relations@bnpparibas.com

<https://invest.bnpparibas/en/>



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world